

Minuma Shun Sai 見沼・旬彩

2020年春号 vol.15



昭和初期の見沼の桜の石碑



みんなで育ててきました
「日本一の桜回廊」

見沼たんぼの桜は、江戸時代の「坂東桜」から、昭和初期の「見沼の桜」、昭和末期の「自治体による植樹」、坂東桜の復活としての「地域住民による平成桜の再生」を経て近年市民団体による「桜の補植活動」へと統いてきました。この市民の熱意を捉えた清水市長さんの提案で、市民の寄付による植樹活動が大きく広がり「日本一の桜回廊」となりました。



イラスト:植木秀視 氏

草だんご



今年の桜回廊は例年より早く、開花が見られました。桜の根元に芽吹いたヨモギを摘み、草だんごを作りました。免疫力を高める成分が多く含まれ、この時期ならではの旬菜です。



20年続いている東京の中学生・小学生さん達の農業体験活動



ファームインさぎ山・萩原さとみさんの水田で、東京の中学生・小学生の農業体験活動が、なんと20年続けられています。

東京都北区立神谷中学校の全校生と、近くの神谷小学校・稻田小学校の5年生の合計200名ほどの

埼玉県・奨励品種米「彩のきずな」



コロナウイルス感染拡大で中止になってしまった3月28・29日開催予定の第7回「さいたマーチ」の「幻の賞品」は見沼たんぼ産「彩のきずな」でした。

今、米の消費が年々減少する一方で産地間競争・ブランド米戦国時代といわれ、次々に日本各地で話題になるお米が生まれています。つや姫、ゆめぴりか、青天の霹靂、森のくまさん等など。埼玉県でも地域に適した、

あさこファーム

新見沼大橋有料道路のたもと、見沼代用水東縁で約4haの田畠で農業・養鶏と直売所などを営む「あさこファーム」をお訪ねしました。

同ファームはイギリスのルース・ハリソン氏の提唱するアニマルウェルフェアの畜産法を採用した平場での養鶏、ヤギの飼育も行っています。

特に養鶏では「アローカナ」と「もみじ」という鶏種を約200羽飼育しておりその卵を農場の直売所や地域のスーパーマーケットで販売しています。

なかでも「アローカナ」の卵は幸せの青い卵と呼ばれ、やや高額ですが同農場の人気商品となっています。

また、同農場は農水省の提唱する農福連携へ

皆さん三校共同で訪問し、学んでいます。

5月の田植え、6月の水田の草取り、9月の稲刈り、12月の収穫祭と年4回の活動で「見沼の農的自然環境」の中で、「勤労・協力・農業生産の価値」を直接、体験活動として学んでいます。

「農のある暮らしは人づくり国づくりの基礎」とするファームインさぎ山の活動理念と教育環境を受け止め、20年間にわたり「教育活動としての農業体験活動」に大きな努力をいたしている三校の先生方の「見識の高さ」と、たくさんの生徒さん達を迎えているファームインさぎ山・萩原さとみさんの「持続力」に、心より敬意を表します。

暑さや異常気象に強く、作りやすい、倒れにくい、病虫害に強い、そしておいしいオリジナル品種の研究をすすめ、平成14年「彩のかがやき」を完成、更にその改良品種「彩のきずな」を平成24年完成させました。「彩のきずな」はその後29年には「特A」を獲得し、一躍人気ブランドとして現在は県内第3位の作付面積となっています。

一さわやかな甘みとうまみ・弾力のあるなめらかな食感一と銘打って県でもその販売に力を入れている「彩のきずな」ですが、とにかく見沼たんぼが「たんぼ」であるために、ぜひ皆さんも見沼産のお米をたくさん食べてコメの消費拡大にご協力ください。



緑区南部辻40-1

TEL.048-878-0092

(携帯) 080-6789-2370)

営業日:毎週土・日 10:00 ~ 15:00 (冬季~14:00)

取扱品:自然卵・コシヒカリ・もち米・古代米・季節の野菜・米油・味噌・卵かけご飯(要予約)

の取り組みや一般社団法人 INAKA PROJECTが農場の一部を利用し行っている活動の農業指導にも積極的に取り組まれるなど、見沼たんぼ農業の持続的発展への情熱といったものが伝わってまいりました。



▲浅子幹夫・紀子ご夫妻

美園駅マルシェ「みそのいち」

●開催日:毎月最終金曜日 15:00~19:00 場所:浦和美園駅改札口前

●問合せ先:美園タウンマネジメント(みそのいち担当:TEL.048-812-0301)

埼玉高速鉄道の浦和美園駅改札口前で毎月最終金曜日15時から、地元野菜を中心とした地域密着マルシェ「みそのいち」が開催されています。地域で活動する地元農家やお店が直接販売する、こだわり野菜、手作り菓子類、花、苗木等、週末の食卓ライフが楽しくなるものばかりです。

このイベントは、住民同士や出店者と住民の交流の場所を創り、駅周辺の賑わい創出や、街の魅力となる地域資源の発見を目的に2016年からスタートし今年4月で48回目を迎えます。

取材日(1/31)には、地元農家の安い新鮮な野菜や季節の花、地元の和菓子店の団子、饅頭に洋菓子店のケーキ、小物アクセサリーが直売され、温かい珈琲も用意されました。19時までオープンなので主婦の買い物客のみならず、仕事帰りの通勤客にも人気です。



花と緑の祭典(春の園芸まつり)

●開催日:5月3日(日・祝)~4日(月・祝)、3日 9:00~16:00、4日 9:00~15:00 ※雨天決行、一部中止

●会場:市民の森・見沼グリーンセンター(北区見沼2-94)

●アクセス:JR宇都宮線 土呂駅より徒歩約8分

または東武アーバンパークライン 大和田駅より徒歩約15分



祭典は5月の連休中に開催されます、さいたま市主催の植栽、即ち草花類、植木類、苗類、農産物等を即売する楽しいイベントです。農業や園芸の振興並びに緑化啓発、世界文化等への理解促進や友好親善を図る目的に

「春の園芸まつり」「シビックグリーンさいたま」「国際友好フェア」の3つのイベントが共同開催されます。「春の園芸まつり」では野菜などの農産物・植木・花卉・苗木などの展示と即売、「シビックグリーンさいたま」は緑化推進のPR活動のほか、花いっぱいコンクール、「国際友好フェア」は外国文化の紹介をはじめ、多様な民族料理・民族品の展示・販売や民族舞踊・音楽の演奏などが催されます。

お店紹介!

手打ち石臼挽き蕎麦・小麦屋



蕎麦屋なのに名前は小麦屋。それは店主の大島克己さんが当初うどん屋を始めようと付けたから、とか。お店に入るとすぐ脇に石臼がケースの中に置かれていて、毎日閉店後、翌日分の蕎麦を挽き準備をします。

原料の蕎麦は主に北海道の音威子府(オトイネップ)から直接取り寄せ、二八蕎麦に仕上げます。材料にこだわった蕎麦は香りがあり、のど越しが良い。そしてつゆは本かつお、宗田がつお、サバ、羅臼昆布を使った出汁に、しょうゆ、みりん、三温糖を一ヵ月寝かした“かえし”を合わせて出しています。さすがです!ほんとうに美味しいんです。

奥様の仁美さんの提案で始めたお店も今年で20年目、東京日本橋に



▲大島克己さん

の蕎麦屋で修業を積み、今では独自に蕎麦道に打ち込む大島さん。スーパーマルエツ東門前店の脇に佇む和風の店構え、ぜひ一度食べに来て下さい。

メニュー:もり蕎麦720円、ぶっかけ蕎麦850円、鴨せいろ900円、ごま汁蕎麦850円/うどんもあります。

見沼区東門前76 TEL.048-687-9055

営業時間:11:00~15:00(ラストオーダー14:30) 定休日:月曜日 祝日でもお休み

「四季菜」森田泰弘さんのイチゴ

片柳郵便局近くにある直売所「四季菜」で、日々完売の人気のイチゴがあります。このイチゴをつくっているのが森田泰弘さんです。

イチゴは作業のしやすさなどから、ピートモスなどを主体として培養液を用いて栽培する高設栽培が増えてきていますが、森田さんは「しっかりと土作りをして自然の力を引き出した土耕のイチゴはやっぱりおいしい」と、昔ながらの土での栽培にこだわって育てています。有機肥料を用い、農薬は苗の頃に少し使うだけというハウスの中では、きれいに熟した真っ赤な実やまだ白い実の間に咲いている花を探して、受粉用のミツバチが何匹もせっせと飛び交っています。やよいひめ、とちおとめが主ですが、他に埼玉県オリジナルの新品種で甘さが際立つ「あまりん」もあります。

四季菜:見沼区御蔵1544 TEL.048-688-3153
営業日時:9:00 ~ 12:00 (木) 13:30 ~ 17:00 (火・土)



森田泰弘さん

アパレル業界からイチゴ観光農園へ「駅チカ イチゴ園 GREENPEACE」

20代の頃はアパレル会社に勤務していました。2017年12月、実家は植木農家をしていたため、その一画に観光イチゴ農園をオープンしました。アパレル時代の知識とセンスを生かし、ホームページやSNSを活用しプロモーションを行い、徐々にお客さんが増えていきました。また、首都圏からアクセス良好な東川口駅(武蔵野線、南北線直通埼玉高速鉄道)から徒歩約6分の好立地にあります。オープンしたばかりのイチゴ直売・イチゴ狩り園です。車、バスなしでもアクセス可能ないちご園は珍しく、ご家族、主婦の方や学生さんにもおすすめです。足の不自由な方、車いすの方、ベビーカーでも移動がしやすい広々としたバリアフリーのスペースです。

さらに高設ベンチ栽培を採用し、楽に手を伸ばしてイチゴ狩りが可能です。

品種は「紅ほっぺ」「あき姫」など3~4品種をそろえています。今シーズンのお勧め品種は「真紅の美鈴」という品種。近年発表された新しい品種で、特徴は「黒いちご」と言われるほど赤黒い色。濃厚な甘味がお楽しみいただけます。埼玉県ではほとんど取り扱いがない珍しい品種です。

三室の中原堂「お堂de marché」



緑区三室にある白衣觀音中原堂。新秩父十番札所として400年ほど前から受け継がれ、今でも12年ごとにお開帳行事を行っています。ここには安産・子育て祈願の母子觀音「白衣觀音菩薩」が祀られ、地域の守り尊として親しまれてきました。この中原堂を地域の交流の場として活性化しようと、初めてのマルシェが1月12日に開かれました。

「中原堂を守る会」が中心となって、市内で活動するNPOや福祉作業所の手作りの豆腐やパン、見沼で採れた新鮮野菜などの他、布小物類やお堂でのさをり織り体験等々。当日はあいにく曇天の寒い日でしたが、甘酒のサービスもあり、地域の人が次々と訪れて楽しそうな話しがお堂を満たしていました。

次回は4月25日(土)10:30 ~ 14:00開催の予定。第二産業道路の橋本屋浦和店のピンクの看板が目印。その隣です。

中原堂:緑区三室200

問い合わせ:中原堂を守る会 TEL.048-873-2970

いちごの直売・WEB販売も行っています。

通常パックから贈答用のギフトパック、オリジナルのイチゴジャムなど販売しています。

緑区大門666

営業時間:10:00 ~ 15:00 イチゴ狩りは9:30受付開始

食べ頃のイチゴがなくなり次第、営業を終了する場合があります。イチゴ狩りは先着順で、受入人数に達し次第、営業は終了となります。必ずホームページの最新情報をご覧になってください。

電車でお越しのお客様:武蔵野線・南北線直通埼玉高速鉄道 東川口駅北口下車駅前通り6分。

お車でお越しのお客様:東北自動車道浦和IC出口から約7分または、国道122号上り線を少し入ったところにハウスが見えます。

https://www.jalan.net/kankou/spt_guide/00000193028/



▲



▲備藤大樹さんご夫妻

石井実生(みしょう)園

美しく咲いた花をただ散るに任せていたのではもったいない。折角だから多くの人に観賞していただきたい。そんな思いから花木生産畑を無料開放しています。ハナミズキ、牡丹、ハンカチの木、ロウバイ等の花木が、季節ごとに様々な花が咲き誇っています。

例年4月中旬のハナミズキまつりでは、美しく咲く多種のハナミズキとともに、黄花モクレン、緑花ロウバイ、カレーの木、ナンジャモンジャ等の珍種植物、更に同園斜面林にある山野草の森を楽しんで下さい。また1月下旬~2月上旬のロウバイまつりでは、冬に咲くロウバイの花の馥郁たる香りを楽しむ観賞客で賑わいます。

イベント情報等はHP石井実生園で検索下さい。

見沼区南中丸75 TEL.048-684-2781

大宮駅東口からバスで10分。中川坂上バス停で下車し1分の所にあります。



▲ハナミズキまつり



遠景は新都心ビル群



▲石井克司さん

見沼・旬の野菜

どこの家庭も定番の肉じゃがに、最近よく見かける旬の野菜「スナップエンドウ」を使ってみました。

尖がった先から筋を取り、下茹でもなくそのまま、いつもの手順で玉ねぎと同じタイミングで投入し、彩りを考慮します。鉄分を筆頭にβカロテン、ビタミンC、ビタミンK、カリウム、カルシウムなどが豊富に含まれています。

今年も上山口新田米づくりにご協力を!!



「上山口新田の米づくり・水田を応援する会」は関係者の皆様のご協力を得て、水田環境保全を図るべく、3年目を迎えることができました。ありがとうございます。

昨年は50年ぶりの大型台風に見舞われ、当地の芝川は越流寸前でした。直接の被害はなかったものの、久々に自然の猛威に触れました。気候温暖化の影響は目に見える形になってきました。これまで以上の心構えと準備が必要です。

さて、今期作業のスタートは、台風で吹き寄せられた裁断わらによる高低差をトラクターの試運転を兼ねて、すでに均し終えています。田植え機も更新されます。

主な作業日程は、4月14日(火)の分水さらに、草刈り、5月19日(火)の田植えを軸に動き出こととしました。今年も応援くださった皆さんに応援金一口(5,000円)当たり10kg、労力提供いただいた方には5kgの応援感謝米をお渡しする予定です。

引き続きのお力添えお願いいたします。

問い合わせ:上山口新田の米づくり・水田を応援する会 西野輝久 TEL.080-1203-1021

▲栄養たっぷり
スナップエンドウ

こばと農園・田島友里子さん



▲田島友里子さん親子

◀ナス

見沼たんぼで耕作を始めて4年。現在6反5畝の畑で自然農に取り組む33歳の農業女性です。1歳と5歳のお子さんのママ、そして夫は公務員。農作業、家事、子育てにと一日中多忙です。

露地でねぎ、ズッキーニ、ミニトマト、オクラ、スティックセニョール、のらぼう菜などの多品目栽培。埼玉や東京の伝統野菜も栽培し、固定種の種を大切にし、自家採種で野菜を育てるこも大切にしています。手塩にかけた野菜の味はもちろん折り紙付き!

子どもの頃三重のおじいちゃんの畑を手伝った原体験があり、美術の仕事から一転して農業研修のため北海道へ。その後結婚し、埼玉県農業大学校を経て、ご縁のあった見沼たんぼへ。

こばと農園の野菜は与野イオンやステラタウンのわくわく広場やJA木崎ぐるめ米ランド、さいたま市内の戸別宅配などで販売中です。

TEL.080-3069-6101

畑の様子はインスタグラム&フェイスブックでも

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
「農業技術革新工学研究センター」

農研機構は食料・農業・農村に関する研究開発を行う機関です。そして、農業技術革新工学研究センターは、ロボットや情報通信技術を活用した革新的な機械化や、農業情報収集・利用技術等の研究開発を行っています。また、安全で優良な農業機械の普及のため、安全性検査や一般性能試験を行っています。

北区日進町1-40-2 TEL.048-654-7000 (代表)
(窓口)研究推進部広報推進室普及専門役 藤岡 修氏

川辺盆栽園

さいたま市の伝統産業大宮盆栽は世界からも高い評価を得ています。その一翼を担う方が、見沼区御蔵の川辺武夫(73歳)さんです。

自動車エンジニアから盆栽の世界に身を転じた川辺さん。その当時の上司の座右の銘「桃李もの言わざれども下自ら蹊を成す」(史記)を心に秘め30歳で盆栽職人としての道を歩み始めました。

修行の身から自立できるまでの約12年間妻貞子さんのご苦労をお話しいただいた時、職人としての鋭い眼差しから一転、時折妻に向けられる温かい眼差しがとても印象的でした。

「樹ファースト」の自然美を飽くなき追及

多くの盆栽作家が剪定してしまう「忌み枝」をあえて残し、更に真柏や一位などの盆栽に見られる舍利や神を白く化粧する石灰硫黄合剤を用いず、「樹ファースト」に徹し樹そのものが持つ自然美を生かす、所謂伝統と革新を融合した作風は、国内のみならず欧州を中心に世界的に高く評価されています。

これまでに欧州諸国へ60回以上招聘され、盆栽マイスターと称されるほど、その知名度は我が国の盆栽職人の中で群を抜いております。

▲川辺ご夫妻と樹齢870年以上の真柏の盆栽(鳳)
見沼区御蔵1566
TEL.048-684-8266

盆栽園の見学は電話予約の上可(日曜を除く)
大宮区役所2階エントランスに作品を常設展示



ラッカセイ収穫機▶



人と環境にやさしい農業の講演会

「見沼たんぼにおける樹木及び桜と課題」について

期 日:2020年5月27日(水)15:30~17:00

場 所:七里公民館 大会議室

講 師:さいたま市造園業協会会長 三枝 和男氏

参加費:500円(資料代等)

問合せ・申込先:黒澤 kurokawa@peach.ocn.ne.jp

都市化が進むさいたま市の中にありながら、見沼たんぼとその周辺の地域には、芝川や見沼代用水を中心とした水辺、また、水田、畑などの農耕地、さらに斜面林、林というようにさまざまな自然環境が残されています。

樹木には常緑樹や落葉樹など様々な種類があり、それぞれ特徴も異なります。植栽の目的や植える場所によって、どの樹木が適しているかも変わってきますので、植栽の種類や特性を理解し対応する必要があります。ポイントを述べます。

また、平成25年度よりスタートした「目指せ日本一! サクラサク見沼たんぼプロジェクト」は、見沼代用水の西縁・東縁および見沼通船堀に連なる総延長20kmを超える日本一の桜回廊づくりに取り組み、平成29年に総延長は20kmを超える、「散策できる日本一の桜回廊」になったところです。貴重な地域資源である「見沼たんぼの桜回廊」を、市民、団体、企業と一緒に「守る・育てる・発信する」ことに取り組むことで地域の活性化を図り、全国的な知名度のある桜回廊とするため、「桜回廊センター制度」の導入についても、講演します。是非、皆様のご出席をお待ちしています。



Information

日本一の桜回廊一周ツアーのご紹介

地域住民・自治体によって育てられてきた見沼たんぼの桜

現在、見沼たんぼには、見沼代用水沿いの桜回廊だけで2,000本ほどの桜があり、その他の公園などの桜とあわせて、およそ5,000本以上の桜があります。

この地域の桜は、江戸時代の加田屋新田の名主、坂東家の植樹による「坂東桜」から、その伝統を地域住民が引き継いだ「平成桜」の植樹など、永年にわたった地域の住民・自治体の努力によって整備されてきました。

「日本一の桜回廊」を目指した「桜咲くプロジェクト」

平成25年、見沼代用水沿いの桜の延長は、18.2Kmでしたが、清水市長さんの提起で「20Kmをこえる日本一の桜回廊」

を目指して、市民の寄付による桜の補植活動「桜咲くプロジェクト」が開始されました。その結果、平成29年、総延長20Kmをこえる「散策できる日本一の桜回廊」となりました。

「日本一の桜回廊」を一周するツアー

その「日本一の桜回廊」を5日間・5コースに分けて一周する連続ツアーが、昨年春から見沼たんぼ地域ガイドクラブで開始されました。「日本一の桜回廊」の素晴らしさを感じてくださいますよう、来年以降もぜひ「一周ツアーにチャレンジ」してみてください。

仲間と一緒に見沼たんぼで米作りをしませんか!

NPO 法人見沼ファーム 21 会員募集

見沼たんぼは貴重なみどり、そして水田は稲を育てながら多様な生き物を育んでいます。米作りを体験しながら、かけがえのない見沼たんぼの水田を次世代へ引き継いでいきたいと考えています。米作りは初めての人も大歓迎。みんなで協働の作業です。見沼たんぼの自然にふれ、楽しみながら意義ある活動に参加しませんか。

●内容

・県から委託された公有地の見沼たんぼで、田植え～稲刈り～収穫の一連作業とともに、県募集参加者に米作り体験イベントを提供しています。

・会員は年間を通して県委託たんぼの管理と米作りを行っています。

・新米試食会・餅つき・暑気払い・忘年会等懇親を深め楽しむながら活動しています。

・参加資格:経験の有無は一切問いません。格別の体力も不要です。

●年会費

正会員(5,000円)、準会員(2,500円)、サポート会員(1,000円)

＊作業や活動に参加する際の交通費や食事代は自己負担

＊会員の資格・活動に応じた収穫米の配布

問合せ:TEL&FAX 048-686-2851 (島田)

ホームページ:<http://www.minuma-farm21.com/>

今号に掲載された、見沼たんぽ地域のお米・野菜・果物・花木 直売所等マップ



市民が応援する見沼たんぽ地域での人と環境にやさしい都市農業の広報誌
「見沼・旬彩」2020年 春号 vol.15

発行: 未来遺産・見沼たんぽプロジェクト推進委員会

<http://minuma-miraiisan.jp> e-mail: minuma@minuma-miraiisan.jp

バックナンバーはホームページよりご覧になれます。

編集: 見沼農業・応援連携部会 / デザイン・印刷: 有限会社アームズ

発行日: 2020年4月10日

We
Love
Minuma

この見沼農業の応援連携・季刊誌「見沼・旬彩」は、公益財団法人 サイサン環境保全基金様、公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟様（住友ゴム工業株式会社様）、公益信託 武蔵野銀行みどりの基金様、からの助成金で印刷・発行しております。